



さくらじま便り

「桜島みんなとつながる」を目指して

SAKURA
JIMA
DAYORI
第7号
2021年12月発行

リユースイベントでのひとまぐ。
全力の水あそびに、子ども達の表情は笑顔でいっぱいでした。

発行・編集 / さくらじま地域おこし協力隊
Photo・Editor / Akane Masudome
Design / Yurina Yamashita

一緒に本誌を作ってくださいる方を募集しております。専用ポスト
(桜島の支所・ターミナル3階)や公式LINEで感想も大募集中
です。公式LINEの詳細は裏面へ。

| お問い合わせ先・感想 |
TEL 099-245-2550(増留)
MAIL a.masudome@sakurajima.gr.jp

CONTENTS

「特集」

上履きリユース
ピカピカ
桜島大作戦!

ニューオープン!

焼き菓子店

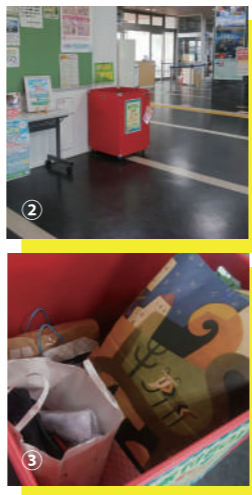
サクラジマ菜菜海 nanami

東桜島校区コミュニティ協議会

ふれあい交流事業
竹とんぼ作り



①こども食堂の紹介／②フェリーターミナルにボックスを設置／③桜島フェリーターミナル設置した回収ボックスはいっぱいに／④洗い終わった靴を乾かすために、外に並べてお日さまのしたに／⑤多くの人の協力により、300足以上の靴が集まりました／⑥シューズ洗いの様子



さらに今回の出張こども食堂では、島内三つの事業者さん(旬菜館さん、珍満さん、MINATOCAFEさん)の協力を得て準備された、特製弁当が登場しました。桜島や県内産の食材を、可能な限りぎゅっと詰め込んだお弁当、は大人気でした！

今回の出張こども食堂では、島内三つの事業者さん(旬菜館さん、珍満さん、MINATOCAFEさん)の協力を得て準備された、特製弁当が登場しました。桜島や県内産の食材を、可能な限りぎゅっと詰め込んだお弁当、は大人気でした！



学校シューズをリユース(再利用)し、人から人へ繋ぐ活動を桜島で開催

成長期の子どもの足が大きくなり、履けなくなったり、履けなくなった、でもまだまだ使える上履きなどの学校シューズをピカピカ(きれい)にして、必要とする人に届けよう、というエコ(環境に優しい)な活動の第一回が、七月二十四日、桜島発のイベントとして行われました。多くの地域関係者の協力のもと、開催となったイベントの様子をお伝えします！

- 主催団体
・ Kagoshima Eco Bridge Project By 学生服リユースNAZUNA
・ かごしまこども食堂・地域食堂ネットワーク
・ 一般社団法人Folklore Forest

どんな活動?
サイズアウトして履けなくなった靴、マジックで名前を書いていて、誰にもあげられないままの靴、意外とお家のどこかにそのままになっていた、いませんか?
実はそういった靴たちは、いつもとは一味違う洗い方でピカピカになれば、もう一度誰かのもとで活躍できるかもしれないんです!
今回のイベントは、そういった学校シューズを、皆さんの協力のもと回収して、イベントに参加したみんなと洗って、次の誰かに繋げようという、目的のもと行われました。参加した子ども達は、自分が普段学校で使っている靴も持ち込むことが可能で、きれいになった靴を少しでも長く、大切に使用してもらうことで、普段何気なく使っている物の大事さを知ってもらいたい、という願いも込められています。
簡単に物を捨てるのではなく、できるだけ長く使うことで、廃棄される靴が少しでも減り、人から人に繋げる、そんな取り組みを鹿児島島のシンボル、『桜島』から発信したい、そんな想いから集まったメンバーによって、今回のイベント開催となりました。

*成長してサイズが合わなくなった/*上履き、運動靴、体育館シューズ等)

十一月、松浦町の一角に、シフォンケーキなど、洋菓子を主に扱う、菜菜海(ななみ)さんがオープンしました！なかなかお店が少ない地域、ということでも噂を聞きつけた方々がさっそく訪れ、オープンも早まったという住民の皆さんにとって待望のお店です！



NEW OPEN!!

素材にこだわった、焼き菓子店がオープン！
サクラジマ
菜菜海 nanami

また自家栽培のフルーツなど、材料にこだわりの、傷がついたことで販売できなかつたり、売れ残ってしまったお野菜などを農家さんから買い取るなどした食材を使用することで、農業分野の活性化にも繋げたい、という狩元さんの想いも込められています。

さらに中身は食べられるのに、傷がついたことで販売できなかつたり、売れ残ってしまったお野菜などを農家さんから買い取るなどした食材を使用することで、農業分野の活性化にも繋げたい、という狩元さんの想いも込められています。

そんな菜菜海さんは、松浦町出身で、米養士でもある狩元さんのお店で、「桜島の活性化になれば」とこちらの店をオープンされたそうです。県内産の赤卵、きび粗糖、国産のこめ油、また自家栽培のフルーツなど、材料にこだわりの、傷がついたことで販売できなかつたり、売れ残ってしまったお野菜などを農家さんから買い取るなどした食材を使用することで、農業分野の活性化にも繋げたい、という狩元さんの想いも込められています。



お店では、ホットコーヒー、又は温かいお茶1杯を無料でいただけます。嬉しいサービス付きです。

おすすめの商品は、桜島小みかんのシフォンケーキ。不思議と桜島小みかんと分かるその香りと味は、狩元さんが試行錯誤を重ね、香りの素となるみかんの皮から出る苦みを感じさせない、やさしい味わいです。

季節の新鮮なフルーツがぎゅっとなつた生シフォンサンドケーキは、生クリームなどの作り方にもこだわり、また運が良ければいつもとは違う珍しいフルーツの組み合わせにも、出会うかもしれません！

おすめの商品は、桜島小みかんのシフォンケーキ。不思議と桜島小みかんと分かるその香りと味は、狩元さんが試行錯誤を重ね、香りの素となるみかんの皮から出る苦みを感じさせない、やさしい味わいです。

いることで大地と海から受ける恩恵、そして子どもの頃に遊んだ、自然溢れるこの地を思いながらつけられたそうです。



お店の外観。駐車場スペースもあります。

サクラジマ 菜菜海 nanami
営業時間/AM 9時~PM 6時
住所/鹿児島市桜島松浦町十八番地
電話/080-2755-0914 or 099-293-2327 (狩元)
店休日/月曜

Instagram →

パースデーケーキの予約販売も
購入希望日の1週間前までの予約であれば、パースデーケーキの販売もしていただけます。島内で購入可能なパースデーケーキ、こちらもぜひぜひお試しください！

- 菜菜海さんが受けたかごよりの支援サポート**
- 商品に使用する素材の提案
 - SNSなどを使用した広報活動
 - ロゴデザインや配布用チラシデザインの指導
 - 新商品開発時のネーミングへの助言
 - かごしま新特産品コンテスト出店に向けた商品展開等の指導 etc...

公益財団法人かごしま産業支援センター
鹿児島県よろず支援拠点
URL/ yorozu-kagoshima.jp/
住所/ 〒892-0821 鹿児島県鹿児島市名山町9-1
電話/ 099-219-3740
営業時間/ [平日]8:30~17:15

あらゆるお仕事の相談が可能！
鹿児島県よろず支援拠点
(通称：かごよ)とは？
国が設置した機関で、個人事業主・小規模事業者、中小企業がビジネスや経営などに関して、各分野のプロへ相談することが出来る機関です。



マジシャンはみんなの人気者！

高校生ボランティアは大活躍！！

お待ちかねのみんなで水遊び

高校生ボランティアは大活躍！！

↑さくらしまっこ勢揃い
→水遊び後のお片付け
↓「出張子ども食堂」でのお弁当配布

↑ジップの袋に入れてシューズつけ置き洗い中

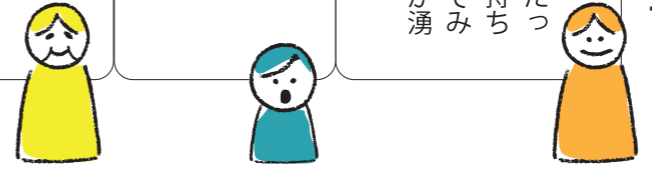
↑みんなで手伝い
→救急車・消防車をみんなでお見送り
←シューズの記名消しの様子

今回参加した皆さんの感想

息子さんと会場に来ていたお母さん
「本当はきれいに洗って寄付する予定だった靴は、『体育館シューズにする』と持ち帰ることになりました。『自分で洗ってみると、とってもきれいになって、愛着が湧いたみたいです』。

寄付されたシューズの記名消しに参加した子どもさん
『なんでそんなにきれいにできるの？』って驚かれたんだよ！

今回会場となった、改新地域の方
「廃校になった改新小学校だが、こういった形で地域に賑わいが生まれることは、大変嬉しい！



当日のプログラム

多くの協力団体・機関により、たくさんのプログラムが行われました！

- みんなでピカピカシューズ洗い！
- 出張子ども食堂×桜島の恵みてんご盛り弁当
- マジックショー！
- 防災ブースで学ぼう！
- みんなで水遊び！
- 電気自動車を知ろう！

ほかの地域では何してるの？

地域の記録

東桜島校区コミュニティ協議会
ふれあい交流事業



「昔ながらの遊びで、世代を超えた交流を」

七月のある週末、東桜島校区コミュニティ協議会の主催により、東桜島中学校の生徒たちとのふれあい交流事業の一環で、「竹とんぼ作り」が行われ、地域からは、最高七十代から保護者世代が参加しました。

昔ながらの遊びということで、竹とんぼを作ったことも、遊んだこともない子ども達には、さまざまな場面で悪戦苦闘する姿が見られました。

また、小刀を使ったことがないという生徒も多く、決して簡単ではない竹とんぼの羽根(回転翼)になる部分の左右の削りとそのバランス取りは、昔遊びのプロ達のデモンストレーションなしでは、なかなか難しいものでした。

ようやく出来上がり、「よしっ!」と意気込むも、飛ばすまでの回し方がわからないなど、その一つひとつが、まるで今の遊びものとは違って、なんとかねばって飛ばそ

うと教わりながら、飛ばしては目の前に落ち、試行錯誤して、幾度となく挑む姿が見られました。

参加した地域の住民の皆さんも、子ども達とのふれあいで生き生きとしている姿が見られ、定年後に県外から桜島に魅せられ移住されたという、今回住民としてされた方からは、「こういう行事に

声を掛けてもらい、子ども達との交流が持てることはとても嬉しい」と話されています。

した。

自分で考え生み出す昔の遊び、世代を超えて、学校と地域の住民の方々が交流する機会は、今は気づかなくても、どれほど貴重な経験だったのかと、桜島の魅力に後々気づくのかもかもしれません。十二月には社会福祉協議会主催の小学校での餅つきでも、子ども達との遊びを通じた交流をコミュニティとして予定しているなど、日々積極的に活動を行っています。

自分でも考え生み出す昔の遊び、世代を超えて、学校と地域の住民の方々が交流する機会は、今は気づかなくても、どれほど貴重な経験だったのかと、桜島の魅力に後々気づくのかもかもしれません。十二月には社会福祉協議会主催の小学校での餅つきでも、子ども達との遊びを通じた交流をコミュニティとして予定しているなど、日々積極的に活動を行っています。

さくらじま便りとは

本誌は、桜島に住みながら、ここで見つける日常の素晴らしさや面白さを移住者視点で見・発信することで、島内外の皆さんと繋がりたいという想いから始まったものです。月一回、回覧板で島内の皆さんに本誌を見ていただく機会を作らせていただいています。今後も地域の皆さんと繋がらせていただきますながら、一緒に本誌を作成し、桜島の良さを多くの方にお伝えしていきます!

編集後記

まずども、早くも桜島での生活も一年が経ちました。去年の冬は家の中でもガタガタ震えていたので、今回は早速防寒対策に入っているところです。この冬こそは桜島の寒さを、しっかりと乗り切れますように。
やました / 日が沈むのが早くなり、大根、人参、さつまいもなど近所さんからお裾分けをいただく、とても季節を感じます。



「さくらじま便り」
公式ライン

ネットメッセージを
随時募集中!

※公式ラインやポストにて送ってくださるメッセージ等は、編集部のみが届きますので、共有されることはありません。お気軽にご投稿ください。